

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調
DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

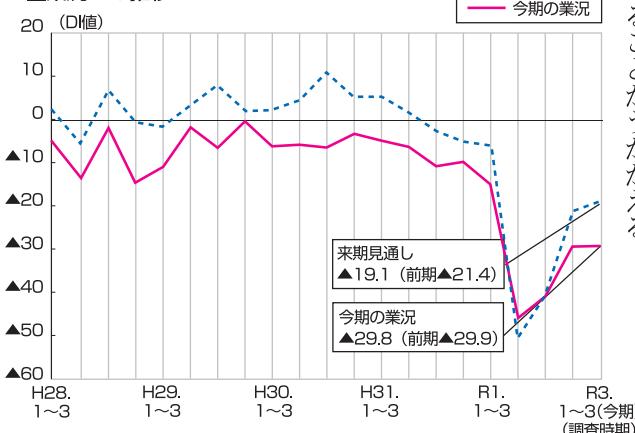
DI値	-25P以下	-25~-10P未満	-10~10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化	悪化	横ばい	好転	特に好転
	↓	↓	→	↑	↑

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 令和3年1~3月
回答企業数 117社

■業況DIの推移



■産業別DI値表

		前期 [2020.10~12] (A)	今期 [2021.1~3] (B)	増減 (B)-(A)
業況	全産業平均	▲29.9	▲29.8	0.1
	製造業	▲31.8	▲36.0	▲4.2
	建設業	▲5.6	▲30.0	▲24.4
	卸売業	▲11.1	▲5.0	6.1
	小売業	▲71.4	▲36.4	35.0
	サービス業	▲25.0	▲37.0	▲12.0
売上額	全産業平均	▲31.1	▲41.9	▲10.8
	製造業	▲27.3	▲52.0	▲24.7
	建設業	▲27.8	▲38.1	▲10.3
	卸売業	6.3	▲9.5	▲15.8
	小売業	▲50.0	▲56.5	▲6.5
	サービス業	▲42.9	▲48.1	▲5.2
資金繰り	全産業平均	▲13.2	▲15.0	▲1.8
	製造業	▲18.2	▲21.7	▲3.5
	建設業	▲27.8	▲10.0	17.8
	卸売業	16.7	▲4.8	▲21.5
	小売業	▲25.0	▲22.7	2.3
	サービス業	▲10.7	▲14.8	▲4.1
採算	全産業平均	▲26.2	▲26.3	▲0.1
	製造業	▲31.8	▲48.0	▲16.2
	建設業	▲17.6	▲19.0	▲1.4
	卸売業	▲11.1	0.0	11.1
	小売業	▲40.9	▲43.5	▲2.6
	サービス業	▲25.0	▲16.0	9.0

【今期(令和3年1~3月期)の業況】
全産業の業況DI値は、▲29.8
(前期比プラス0・1ポイント)で、
産業別に見ると、卸売業、小売業で前
期比6・1~35・0ポイントの改善と
なったが、製造、建設、サービスの3
業種では前期比4・2~24・4ポイント
悪化となつた。

【来期(令和3年4~6月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲19.1
(前期見通しと比較してプラス2・3
ポイント)と、前期から改善はして
いるものの、依然として厳しい見通しとなつて
いることがうかがえる。

【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、▲41.9
(前期比▲10・8ポイント)と
なつた。全業種において、前期と比
べ、悪化した。

全産業の資金繰りDI値は、▲15.0
(前期比▲1・8ポイント)と
なつた。建設業、小売業は改善し、
その他の業種は悪化した。
全産業の採算DI値は、▲26.3
(前期比▲0・1ポイント)となり、
卸売業、サービス業は改善し、その
他の業種は前期と比べ悪化した。

- コロナ禍の中、民間の事業者も不景気で、需要が停滞している。(建設)
- 旅行等移動に係る購買動機が大きかつたことに改めて気づかされた。(卸売)
- GOTO等、人の移動、対面に対する新しい考え方や施策を希望する。
- 出張や店舗での販売が難しく、主要都市の実店舗での売上が低くなっている。(小売)
- コロナの影響により、個人宅訪問での営業・対応ができるずになっている。営業のやり方を根本的に見直す必要がある。(サービス)

今期業況はほぼ横ばい。
来期も厳しい見通し続く。

【回答企業のコメント】